

市議会だより



■ 令和4年度決算を認定 P.2~ 3

■ 一般質問14人が登壇 P.8~14

作品介绍

「ささようスイミー」

篠山養護学校小学部の21人の児童がスイミーのお話を聞いて絵にしたものです。スイミーは、タレピン(醤油さし)に油性マジックで色を塗り、ボンドで貼り付けて作成しています。先日中央図書館で開催された「ささよう展」でも展示されました。

令和4年度一般会計決算を認定

農都のめぐみ米推進に課題

QRコード



■公共交通対策事業

問 路線バス、コミバスの利用上限200円制は、財源的に継続可能か。

答 令和3年から上限運賃制を導入した結果、補助対象路線の乗客数が増えており、効果は高いと考えている。最終的に事業を継続するかは、路線バスを維持するための補助金も含め、公共交通の問題として検討する。

■中高連携事業

問 市内高校への進学率を上げるために実施している事業だが、どのような効果があったのか。

答 市内には3つの高校があり、特色を生かした魅力ある教育を行っている。オープンスクール等で見たうえで、選択してほしいということで令和3年度から事業を進めている。

市内高校への進学率は、令和3年度55%、令和4年度58%、令和5年度60%となっている。

■地域医療対策事業

問 地域医療の在り方について、現状や方向性は。

答 地域医療対策会議を開催し、地域医療の在り方や、兵庫医科大学ささやま医療センターと岡本病院の統合について議論を重ねてきた。2病院の統合による市立病院化ではなく、今後もしさやま医療センターに本市の中核病院として地域医療を担っていただきたい

■市税の滞納状況

問 固定資産税の滞納者9335人中、100万円以上の滞納者9人が、滞納総額の52%を占めているのか。

答 滞納額の52%を占めているのは9人だが、かなり大きな額を一つの企業が占めている。

問 税の公平性の観点からも、差押えなど行政の対応が必要ではないか。

答 この1社に関しては、約5、300万円の滞納がある。不能欠損にならないように対処しており、分割納付での確実な支払いを求めている。

農都のめぐみ米 認証制度の確立を

委員長質問 令和4年度の決算状況や令和5年度の補助金の申請状況をみると、その将来が心配される。農都のめぐみ米が市の農業の骨格施策となり、有機農業への確かなステップとなるためには、品質や栽培方法、ブランド化や流通・販路の開拓について取り組んでいくことが必要ではないか。

市長答弁 平成28年度から取り組んで以降、JAと協議を重ね、市内の水稻面積の26%まで普及を図れた。現在の課題は、より多くの農業者に作ってもらえるように高く売れる仕組みの構築が必要となっている。また、環境に配慮した作り方の米であることを市として消費者に保証できるか検討を進める必要があると考える。

附 帯 決 議

- ・農都のめぐみ米のさらなる発展のために、品質や栽培について第三者から見てもそれらが保証されていることが分かるようにする体制を確立させること。
- ・農業者、市民、そして市外の方へさらなる周知を図ること。
- ・流通についてしっかりと取り組んでいくこと。
- ・農都のめぐみ米補助金についても、その効果の検証をしっかりと行い、農都のめぐみ米が自然環境や生き物に配慮した農都丹波篠山にふさわしいものになるよう取り組んでいくこと。
- ・進捗について年に一度、市民に報告すること。



農都のめぐみ米を使用した学校給食

との意見があった。現在の協定が令和7年に満了を迎えるため、兵庫医科大学と話し合いを進めている。今年度中に協定継続の方向性が固まれば、今年1年かけて協定の中身を詰めていきたい。

■農業委員会関係費

問 地域計画の策定にあたり、農業委員、農地利用最適化推進委員が仕事をしやすい環境づくりをしていただきたい。委員報酬の改正は、検討しているのか。

答 近隣市の状況なども含め、今後検

討していく必要があると考えている。

■環境創造型農業推進事業

問 農都のめぐみ米関係の補助金について、栽培面積を1,200ヘクタールまで増やし、予算は900万円を組んだが、交付対象面積は560ヘクタールとなっている。原因は何か。

答 市内農家への米作りのアンケートをもとに積算、制度化したが、申請されなかったり、要件が満たされず交付決定に至らなかったことにより、アンケート結果との乖離が生じた。

令和4年度特別会計（全3会計）決算を認定
国保加入者の増加は
今後見込めず

国民健康保険特別会計

問 加入者の減少原因と今後の予測は

答 社会保険に加入される方や、団塊の世代が75歳を迎えると後期高齢者医療に移行する。今後、国保加入者が増加する要因はないと見込んでいます。

後期高齢者医療特別会計

問 令和3年度より滞納繰越分の徴収率が減少した主な原因は。

介護保険特別会計

問 高齢の配偶者や親を介護するケースが増えている。介護者への支援は。

答 本人が持つ力の維持や伸ばしてい

くということが介護保険の本来の趣旨であるため、本人や介護者にとってどのようなサービスが最良かを考慮し、サービス事業者と一緒に支援をしてい

る。介護用品の給付事業や定期的な介護教室を実施するなどの支援をしてい

令和4年度公営企業会計決算を認定
西紀中地区の漏水管路を
重点的に改修

水道事業会計

問 管路の更新について、旧篠山町内の工事と西紀地区の更新時期が重なってくる。計画的に資本投資する必要があるのではないか。

答 水道管の更新を行う基準は、塩ビ管の中でも特に漏水が多い接着剤を使って接続している管路を重点的に更新している。令和4年度末で、その管路が市内で50キロ程度残っており、西紀中地区が多い。現在は西紀中地区を重点的に更新しており、他の地域も含め、年間で3キロ程度を目標に計画的に更新している。



下水道事業会計

問 水道料金が高いと言われるが、下水道使用料は他市と比べて高いのか。

答 令和5年1月1日現在で、下水道使用量20立米を使用した場合は、県下で16番目となっている。水道料金は、県下で1番高いが、水道料金と下水道使用料を足すと、県下では4番目に高くなる。

一般会計 2,565万円、 特別会計 5,029万円の増額補正予算案を可決



(10.31会議)



(11.28会議①)



(11.28会議②)



(12.21会議)

城東こども園整備事業や一般保険者高額療養費など必要経費の増額補正を行う一方、長寿記念品など事業執行の精査による減額を行った。審査は、予算決算委員会に付託、総務文教・民生福祉・産業建設の各分科会で審議の上、可決した。

一般会計

■地域ポイントシステム構築委託費

【553万円】

問 来年度から導入予定の地域ポイントアプリの事業内容は。また、稼働時期はいつか。

答 健康増進事業や環境保護活動等に対するポイントを想定しており、アプリを導入する。これまで現金で給付してきた市の補助金や交付金のうち、法令等の制約がないものについて、ポイント付与という形に置き換え、地域内循環できるように構想している。

また、本年度中にプロポーザル方式

により業者の選定を行い、来年の7月から9月ぐらいの間に運用を開始したいと考えている。

■城東こども園整備事業【307万円】

(仮称)城東こども園整備候補地の試掘調査や土壌調査を行うための委託料

問 土壌調査等について、今田こども園の件もあるので、しっかり調査してほしい。この金額で大丈夫か。

答 廃棄物処理法改正後に城東中学校を解体しているため、今田こども園のように解体物が埋まっているということとは考えられない。校舎、焼却場の情報も図面により把握しているが、念のため土壌調査と試掘調査を行い、埋設物がないかどうかを確認することになる。土壌汚染対策法に準じて調査を行う予定である。

■敬老事業費の減額【△194万円】

長寿記念品代の確定による減額

問 長寿記念品は、どのような基準で

選定しているのか。もっと喜ばれる記念品を選定するため、市民の声を聞いて予算執行することはできないか。

答 米寿や百賀の方には約1万円相当の記念品をお贈りしており、寝具をメインに選定している。百一歳以上の方には毎年お贈りしており、毛布やタオルなど日常で使用できる品物を変更しながら選定している。

使用いただける記念品として、これまでは寝具を中心に選定していたが、来年度に向けて、より良い物を贈れるように検討していきたい。



101歳以上のご長寿お祝い

■多文化共生事業

【16万円】

多文化共生交流サロンの開催経費

問 多文化交流サロンの開催について、どのような計画をしているのか。

答 仕事、出産・妊娠・子育てや暮らしについての相談ブースを設置し、外国人市民の相談に応じる。

外国人市民は、清掃センターのリサイクル品に興味があると聞いている。リサイクル品の案内や、課題となっているゴミの分別の周知も考えている。

交流サロンでは、日本の文化に触れ、賑やかで楽しい内容にするため、ウェルカムコンサートでのデカンショ節の披露や海外の飲食物などの喫茶スペースの設置を予定している。

また、広報誌などで広く周知して、一般市民の方も来ていただき、多文化交流を図りたい。

■河川維持修繕事業

【179万円】

篠山城跡・南馬出堀の外來種アカウキクサ対策費

問 堀に発生したアカウキクサの対策は。

答 昨年は、南馬出堀がアカウキクサでほぼ覆われていたので、堀の水を抜いたが、底には4,400トンほどの水が残っていた。

今年の夏は、同じようにアカウキクサが堀の中を覆ってしまったので、今

回は水を全部抜いて枯らしたうえ、空気にさらし、寒さで死滅させてしまう対策をとっていききたいと考えている。

■起業支援補助金 [528万円]

補助金申請者の増加に伴う対応

問 起業支援補助金申請が何件あり、どのような業種が多いのか。また、定住促進重点地区への補助が増えている要因はなにか。

答 令和5年度は、既に15件を決定している。内訳は、多紀地区4件、篠山地区1件、西紀地区3件、丹南地区7件で、業種は、サービス業と飲食業が多い。今後、追加しようとする8件についても、サービス業、飲食業や宿泊業である。

特に、今年度については、福住地区などの定住促進重点地区での起業が増えている。地域での受入れ体制や移住者が移住者と呼んでいることなどに要因があるのではないかと考えている。

特別会計

【国民健康保険特別会計】

■一般保険者高額療養費

〔3,031万円〕

本年度見込み額の増加

問 高額療養費の増額理由はなにか。

答 以前は、70歳以上の方の入院が多

かったが、今年度は50代から60代のがん患者がかなり増加している。そこから高額療養費の一部負担金を差し引くため費用が増加している。



【介護保険特別会計】

■成年後見利用支援事業[153万円]

利用支援件数の増加に伴う後見人等報酬助成金の増額

問 利用申請件数が増加している要因は何か。また、後見人への対応は十分にできているのか。

答 認知症高齢者や単身世帯の増加という社会的背景があるため、国では必要な人に成年後見制度を届けることを第一目標としている。本市も先駆的に権利擁護サポートセンターを立ち上げるなど、利用促進に力を入れており、周知が進んできていることが増加の要因と考えている。

また、後見人の確保は全国的にも大きな課題となっている。弁護士会や神戸家庭裁判所と検討しているところであり、今後も重点項目として取り組んでいきたい。

10月31日会議

■今田認定こども園建設地の処分費

[524万円]

(仮称)今田認定こども園建設地で掘削されていた黒い土まじりの木の燃えかす等からダイオキシンは検出されなかった。しかし、コンクリート片等同様の方法では処理できないため、管理型産業廃棄物として早急に処理をするため、コンクリート片等処理費、土壌改良費、木の燃えかす等処理費の差引必要額を原案可決した。

また、それに伴って増加する工事請負契約金額の変更もあわせて可決した。

11月28日会議

■条例改正による人件費の増額を追加

[1億1,597万円]

丹波篠山市では、地方公務員法の規定によって、人事院勧告に基づき賃金、労働環境の改定を行っている。今回、人事院勧告による市関係条例の改正があり、原案可決した。

その内訳は、職員給与の月額を若年層に重点を置きながら0.96%増とするための6,963万7千円、職員期末手当・勤勉手当を0.1月分増と

するための3,177万2千円、議員にかかる期末手当0.1月分増とするための4万円、共済費や負担金などで1,008万1千円、特別会計・企業会計への人件費負担としての繰出金として444万8千円。

人件費増額の内訳

職員給料	6,963万7千円 (月額)	0.96%増
職員期末・勤勉手当	3,177万2千円	0.1%増
議員期末手当	4万円	0.1%増
共済費・負担金等	1,008万1千円	-
繰出金	444万8千円	-

12月21日会議

■低所得者世帯に7万円を給付

[3億3,659万円]

国の総合経済対策により物価高騰の負担感が大きい低所得世帯への負担軽減を図る事業として、1月に1世帯あたり7万円の支援金を追加支給する補正予算が提案され、全員賛成で可決した。事業対象は、住民税が非課税の4,700世帯。

条例改正

■市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

国が定める「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」の一部が、令和5年9月に改正された。それに伴い、市条例の一部を改正した。

問 今年度の保育児童と待機児童の人数は何人が。

答 保育児童は93人。待機児童は7人。

■市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

■市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

今回の法改正により令和6年度から、パートタイムおよびフルタイム会計年度任用職員に対して、勤勉手当を支給することとなった。

一般職のボーナスの改定に準じ、議員も所要の改正を行うため、関係条例の一部を改正した。一般職員及び議員の期末・勤勉手当支給割合の引上げは、年間4.4月→4.5月に改正した。

■市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

「放課後児童支援員に従事し、2年以内の研修終了予定者」を放課後児童支援員とみなす国の変更にあわせて、市条例を改正した。

問 放課後児童支援員は、市内の施設等によって対応に違いはあるのか。

答 違いは無く、全てにあてはまる。

■市保育所条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例

市立にしき保育園の保育室を増築・改修に伴い、定員を75人に改正した。

問 今回の増築で15人増員可能だが、実際に何人増員が可能なのか。

答 15人の定員増に伴い、色々な手法を用い保育士の確保に努めていきたい。

■市立認定こども園条例等の一部を改正する条例

今田保育園と今田幼稚園を統合し、認定こども園の新築工事が、来年7月の開園に向け進められた。名称は「丹波篠山市立こんだ認定こども園、位置

「丹波篠山市今田町今田新田38番地」、定員「120人」と、市条例を改正した。

問 4、5歳児の保護者は、こども園を継続するか、指定幼稚園を利用するか

かを選択できるようにならないのか。

指定管理者が決まる

■市宮斎場の指定管理

火葬炉設備のメーカーである(株)宮本工業所を、引き続き令和6年4月1日から5年間の指定管理者に指定した。

■市こんだ薬師温泉めぐりの郷の指定管理

(株)夢こんだを、引き続き令和6年4月1日から5年間の指定管理者に指定した。

■市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例

「マイナ保険証」の導入を受け、福祉医療事務で特定個人情報情報の連携ができるよう改正した。

問 今秋から実施の保険証一体化の課題は。

答 現在は保険証があり、診療所等での利用者は少ない。「マイナ保険証」の利用を促すためには、窓口での声掛けが必要と感ずる。

■丹波篠山市国民健康保険条例の一部を改正する条例

出産被保険者の国民健康保険税は、規定出産被保険者の産前産後期間の所得割額と均等割額を免除される。免除期間は、単胎妊娠の場合4か月間、多胎妊娠の場合6か月間。

■市火災予防条例の一部を改正する条例

省令の改正により、蓄電池設備の種類や安全性に応じた内容となるよう所要の見直しが行われた。それに伴い、市火災予防条例を改正した。

■市上立杭地区活性化施設の指定管理

今田町上立杭自治会を、引き続き令和6年4月から5年間の指定管理者に指定した。その後、地元へ移管する予定。



賛成少数で請願を不採択

兵庫県保育所運動連絡会から「子どものために保育士配置基準の引き上げと、労働条件改善による保育士の増員を求める」意見書を、国に提出することを求めるものとして、丹波篠山市議会に請願が出されました。

山田潔議員が紹介議員となり、総務文教常任委員会で、審査を行いました。

問 貴団体に加盟している市内の保育関係団体はあるのか。

答 丹波篠山市からは加盟されていない。

問 本市に今回、請願書を提出されたが、県内の自治体に対して、請願に関し、どのような動きをされているのか。

答 毎年、兵庫県の自治体、首長にお願いに回っている。

議員間討議では、左記のような意見が出され、審査の結果、不採択となりました。

● 国でも同様の動きがみられるため、現時点では、国の動向を見守ることにしてはどうか。

● 本市の保育所関係者が請願を出された会に加盟していないのは、どうか。

● 保育士の処遇改善は重要課題である。本市として独自に保育士の待遇改善も行っている、今後、委員会調査研究を進めていくことが必要である。

本会議でも賛成少数で不採択となりました。

受理した要望等を
市長に申し入れ

■ 令和5年度 生徒の教育環境にかかわる要望事項について

■ 令和5年度 児童・園児の教育環境に係る要望事項について

■ 令和5年度 児童の教育環境に係る要望事項

■ 令和5年度 児童の教育環境に係る要望について

■ 多文化共生社会に向けての新たな外国

人住民対応施策への提案及び要望書
■ 商工会に対する支援要望について

本市議会議長あてに、7件の要望等が提出されました。

右記の要望等については、適切に対応されるよう市長に申し入れました。

■ 健康保険証の存続を求める意見書提出についての陳情書

右記の陳情書については、民生福祉常任委員会で審査を行い、現行の健康保険証に替わる手段が複数あるため意見書を提出しないと決定しました。

能登半島地震被災地へ

義援金を

令和6年1月に発生した能登地方を震源とする地震で、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被害を受けられた皆様が1日でも早く平穏な生活に戻られる一助になればとの思いから、丹波篠山市議会議員互助会より、日本赤十字社に10万円の義援金を届けました。

広告

自宅葬から会館葬まで…
セレモニーホール
ネムールの木 MORI
ドライアイス・寝台車は24時間365日対応させて頂きます。
24時間受付 0120-39-1005
ネムールの森篠山葬祭会館 丹波篠山市東吹1258-2

広告

「新しい未来を創造、提案する」
土木・建築総合施工会社 総合建設
西村建設鋼業株式会社
社 全国鉄構工業連合会会員・国土交通大臣認定工場(R)
〒669-2501 兵庫県丹波篠山市奥原山327 TEL.079-557-1316
[E-mail] s-nishi1@iris.eonet.ne.jp FAX.079-557-1317



隅田 雅春

1. 更なる教育改革を
2. SDGSの着実な推進を

QRコード



問1 画一的な夏休みの宿題を廃止しては。

夏休みの宿題を各自が自分でテーマを設定して取り組む課題については、すべての小・中学校で取り組んであり、夏休みの宿題を主体的な家庭学習に変えていく取り組みを進めている。しかし、教職員や保護者など、大人の意識改革も必要であるのに加え、発達段階に応じた適切な指導が欠かせないため、啓発研修を通し、主体的な家庭学習の充実に向けた取り組みを進める。
一人1台端末を家で利用できないか。

学校長の判断により、14校で端末の持ち帰りを実施している。端末を適切に使用し、家庭学習を充実させるには、発達段階に応じた指導が必要のため、教職員には情報モラルの研修、また学校においては、情報モラルやネットリテラシーに関する研修を行っている。
校長兼任の幼稚園長手当の拡充を。
担任をもたない主任教諭の配置がない兼任園長は、業務量も多く負担も大きいことから、県内市町の状況を参考

に検討をすすめる。

学校内にフリースクールの開設を。

校内適応指導教室の設置については、空き教室の確保やスタッフの配置等の課題があるが、国や県の動向を踏まえながら篠山中学校以外でも設置できないか検討する。

問2 2030年を目指したSDGSの目標の数値化を行い、可視化できる体制を整えるべきではないか。

令和6年度から総合計画後期計画の策定を始めるので、目標値等の進捗の確認を行うとともに数値化できる指標などがなければ整理検討する。

3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	11 住み続けられるまちづくりを



安井 博幸

1. 医療と救急体制の将来の姿は
2. フットパスによるまちづくりを

QRコード



問1 救急車の現場での滞在時間を短くする為にも、近隣の医療機関との連携強化を。

市では、ささやま医療センター、岡本病院、にしき記念病院で輪番制により、二次救急を担って貰っている。病院手配時に受け入れ先がなかなか決まらないなどの課題はあるが、丹波医療センターや三田市民病院には積極的に救急患者を受け入れて貰っている。

丹波医療センターの医療体制を充実させ、3次医療機関(救命センター等)への格上げは。



市消防本部での救急訓練

丹波医療センターは丹波圏域の中核として、救急患者を24時間、365日受け入れている。しかし、人員や設備要件を満たしていないので、3次医療機関への課題は大きい。

市と兵庫医科大学との協定期間は、令和7年7月までであり、更新の状況は。

更新に向けて兵庫医科大学と3回協議してきた。近く4回目の話し合いを行う。

問2 フットパスはイギリスが発祥で、昔からの風景を楽しみながら歩ける小径のこと。人々が歩くことによって、地元の自然や文化、歴史に親しみ健康増進や、地域活性化を図ることが期待される。フットパスには、官民一体の体制が望ましいと考えるが。

歩いて自然や歴史に親しむことは、地域が活性化化するものと考えている。丹波の森づくりの30周年記念誌でも、フットパスやトレイルの整備とガイドマップの作成が掲げられている。市としてもアクションプランを策定し取り入れる。



園田 依子

1. 視覚障がい者の情報取得について
2. 自転車用ヘルメット着用促進について

QRコード



問1 情報の取得利用・意思疎通に係る施策を推進し、共生社会の実現のため、「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」が2022年5月に施行。障がいの有無によって分け隔てられることなく情報を取得、利用し、意思疎通できる社会の実現をめざし、視覚障がい者への支援として行政情報の提供・取得可能なユニ・ボイスを早急に普及しては。

ユニ・ボイスは文字情報を、スマートフォンで読み込むことで音声情報を得ることができる。特別な機能がなくても、スマートフォンがあれば無料のアプリを使って音声再生されるが、利用者自らアプリを取得しなければ利用できないという課題がある。更なる情報収集、課題について調査研究を進める。

問2 県の「自転車ヘルメット購入応援事業」への市のサポートは。

オンライン申請が難しい方には、市民安全課窓口で支援する。また、地域サポート職員が申請方法等の案内を各自治会に周知する。

自転車の安全対策について。
小中学校での交通安全教室、秋の全国交通安全運動に合わせ、市内大型店での街頭啓発、篠山東雲高等学校でのヘルメットの着用啓発を行った。令和6年は、春の交通安全運動に向け、鳳鳴高等学校での着用啓発を予定。また、着用推進を広報するのぼり旗を作成し、各自治会へ配布して啓発する。

自転車事故が多いと言われている。学校での取り組みは。
小・中学校では、ヘルメット着用の努力義務化の周知に加え、着用の必要性を指導するよう伝えている。ヘルメットを着用する目的は、児童生徒の命を守ることにある。着用することの意味を理解し、自分の意志で着用するかどうかの視点で取り組みを進める。



上田 英樹

1. 外国人市民との共生について
2. 西紀北給水区域における水源確保

QRコード



問1 外国人市民は、技能実習生等の増加により市民の40人に1人という状況である中、今後どのような施策が必要と考えているのか。

来々3月までに、「多文化共生推進基本方針」を策定し、日本語を学習する場、交流の場、医療通訳や相談窓口の支援体制の構築を図る。

「多文化共生社会」の実現には、市職員の意識改革も必要で、庁内で「やさしい日本語」の研修や、市ホームページで外国人の方が検索しやすい内容にしてはどうか。

職員研修は必要と考えており、来年



にほんご交流サロン(防災を学ぶ)

問2 西紀北給水区域の年末年始の1日水道使用量は、計画最大給水量(30m)と同等の量を使用している。

度から実施する方向で考える。ホームページも分かりやすい内容にしていきたい。

生活言語と学習言語は異なり、「ダブルリミテッド」の課題もあり、学校等でも、外国人の子ども達もしっかりと見守っていただきたい。

問2 西紀北給水区域は県水やダムからの給水は不可能。それぞれの浄水施設のみで給水し、大規模な住宅開発や多くの水道を使用する企業には市の水道供給は難しい。

後川と西紀北給水区域は県水やダムからの給水は不可能。それぞれの浄水施設のみで給水し、大規模な住宅開発や多くの水道を使用する企業には市の水道供給は難しい。

自己水源を確保して水を確保している宿泊施設、温泉施設やキャンプ場等に市水道の給水は可能か。

今後、給水可能な施設から水道利用ができるように、協議を進める。



原田 豊彦

1. 耕作放棄地に対する考え方は
2. 各種イベントで得られた賑わいを全市
に波及するには

QRコード



問1 市内の耕作放棄地を今後どうする
のか。市独自の支援策は講じるのか。
(有)グリーンファームの今後のあり方
は検討したのか。

460kmに及ぶ獣害防護柵と「多面的機能支払」等で耕作放棄地にならないように取り組んでいる。解消に関する支援策は、県の「農地有効活用総合対策事業」が一般的だが、市独自の施策も検討したい。現在、市では「地域計画」の策定を市内全域で進めており、耕作できない農地の管理も地域で検討いただく。

(有)グリーンファームについては、



木の生えた耕作放棄地が「真菰」で蘇る

市内プロジェクトチームにて検討中で、まとめれば発表する。

問2 全国伝統的建造物群保存地区丹波篠山市大会の狙いと達成度は。

丹波篠山市の魅力を外内に発信することが狙いだった。住民全体の取り組みを全国に発信でき、目的はほぼ達成したと認識している。

賑わいの波及方法と、自治会長やまちづくり協議会への支援体制は。

秋のイベントは地域の皆さんの手により、「丹南味覚まつり」「城東味まつり」「楽市楽座」と開催されている。また、大芋や雲部、西紀地区ではマルシェが開催されるなど、様々な季節に市内各地への集客効果も高まっている。

自治会長やまちづくり協議会に対してどのような支援・相談体制を構築しているのか。

今年度から「ワクワク農村創成補助金事業」を創設し、地区での活動を応援したい。自治会長やまち協の相談体制は各支所に地域振興課職員を配置することで、一定の相談体制は構築できている。



堀毛 宏章

丹波篠山国際博について

QRコード



問 丹波篠山国際博の準備体制について、事務局の事務や作業量を考えると専任スタッフの増員が必要ではないか。

現在は、観光交流部内の職員が連携協力して事務に当たるほか、国際博実行委員会の各部会には、関係する他部署の課長も参加している。今後のスタッフ数については、担当職員と協議の上必要に応じて検討していく。

国際博開催の受け入れ体制について、市内公共トイレの改修の見通しは。また、中心部の大手通りに分かりやすい案内表示板を設置しては。

三の丸広場と河原町駐車場のトイレについては、令和6年度にトイレの洋式化や照明のLED化などを行い、明るく清潔感があり、利用者が気持ちよく使えるよう改修する。

大手通りの案内表示板についても、まちなみ景観にマッチする表示板を観光案内所の付近に設置する。

国際博には、童謡唱歌グループなど音楽団体を始め、コロナ禍で活動できなかった市民活動団体が多数参加して

いる。この国際博を契機にコロナ禍前のように活動できるよう、この国際博が活動復活の契機になればと願っている。今後、活発な活動が持続できるよう市の支援が必要であると考えるが。

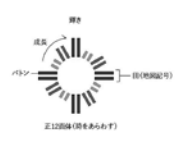
コロナ禍で活動を制限された市民活動団体や中止となった地域のお祭などが、この国際博を契機として、これまでに活動いただければと期待している。

また、市の広報誌「丹波篠山」の「みんなのひろば」欄には、国際博に参加する市民団体の活動を紹介するコーナーを新設する。



丹波篠山国際博

日本の美しい農村、未来へ



輝く農村、丹波篠山

丹波篠山には、美しい農村の風景をはじめ、歴史、文化、自然、産業、工業など様々な魅力があります。

その魅力を国内外に発信し、さらなる発展を促すことを目指しています。

「美しき」を未来へ受け継ぎ、さらに輝く丹波篠山へという思いを込めました。

【刊行に際して】 輝き
【刊行に際して】 未来
【刊行に際して】 未来



渡辺拓道

1. 人口減少による急激な社会変化に備えよ
2. 地域医療維持の協議状況について

QRコード



問1 人口減少により地域活動がいよいよ困難になり不安感が増してきている。行政だけでなく民間(事業者等)の力を得たまちづくり協議会単位の地域支援の仕組みづくりが必要と考える。まずは、地域課題について市と民間が話し合うテーブルがつかれないか。

また、少子化も進行している。特に市の西部地域で少子化の課題が顕在化してくると考えられる。これまで主に東部地域を重点としてきた子育て世帯の定住支援、子育て支援について全体的に考え直すべきである。

財政支援として地域づくり交付金、人的支援として地域おこし協力隊制度の活用や地域サポート職員制度を運用し、支所に支援職員を配置している。今後もこの体制で地域をサポートしていきたい。なお、民間との地域支援についての協議の場づくりは検討できる。

また、重点支援を行っている定住促進地域の設定はこれまで3年ごとに検証してきた。市西部地域については、令和6年度に向けて検討していく。

問2 兵庫医大との協定期間が近づいている。協議状況はどうなっているのか。

本年度に入ってから3回の協議を行っており、医大側からは、私立大学なので収支も重要であると聴いている。市としては、市の医療ニーズを調査しながら、医大に対してどのような診療科目であれば大きな赤字にならないか問いかけている。また、協議に同席の県に支援の可能性について問いかけている。なお、平成20年から25年間は、医療センター底地の売却等には市の同意が必要となっている。



向井 千尋

- 子どもたちに多様な学びの場を

QRコード



問 子どもたちが豊かで幸せな子ども時代を生き、健やかに成長するためには、一人ひとりを尊重した学びの場や安心できる居場所づくりが必要だ。全国的に不登校児童生徒が増えているが、本市の現状や取組みはどうか。

令和4年度末で、小学生26人、中学生75人と増加傾向にある。その要因は様々で、支援の方法も一人ひとり異なる。適応指導教室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置、研修会等の取り組みに加え、不登校対策連絡協議会等で情報交換や対応策の検討等を行っている。

市は「教育機会確保法」(平成29年施行)の理念に従い、不登校となっている児童生徒に対し、多様な学びの場を支援するべきである。

- ① ゆめハウスの更なる活用
- ② 校内に安心できる居場所を創る
- ③ 民間のフリースクールへの支援を

行っているだろうか。

① ゆめハウスは、現在、小学生9人、中学生8人が利用している。児童生徒の思いや考えを尊重して活動して

いる。

② 校内での安心できる居場所をつくる必要性を感じている。現在、保健室等を活用し、教職員が対応しているが常時対応できてはいない。今後、国や県の動向も踏まえ、職員の体制づくりを検討していきたい。

③ 市として認定したフリースクールとの連携や支援を検討していく。



フリースクールでの取り組みの様子



森本 富夫

1. 丹波篠山観光(10月)の現状と課題
2. 元気な高齢者に健康器具設置を

QRコード



問1 近年、多くの観光客が訪れ、関西の主な観光地と肩を並べるようになった。しかし、オーバートーリズムの様相であり、車の渋滞などが、市民生活の受忍限度を超えるとともに、観光客の満足度を著しく低下させているのではないか。城下町地域への一点集中から、市内全域の観光資源を生かした観光都市「丹波篠山」への具体的な取り組みを問う。

昨年度の観光消費額は、約216億3千万円となった。今秋、渋滞対策を行い、昨年より若干緩和された。また商店街は自動車通行規制により、車と歩行者を分離することができた。昼食場所の不足は、城下町以外にも多くの飲食店があるので、関係者と協議し対応を検討したい。市内全域にいろんな行事や魅力があり、観光客にゆっくと巡っていただけのように取り組んでいく。

問2 多くの高齢者が、自分の体調に合わせた運動に取り組み、介護予防に努めている。高齢者自らの運動を支援する場として、「おいでよささっ子遊具



健康器具 バランス円盤

設置事業」の敷地に、全国的にも広がっている健康器具を設置し、子どもを見守りながらの運動や交流、つどいの場所としての整備を問う。

子ども用遊具が減る一方で、高齢者の介護予防につながる健康器具を設置する自治体がある。三田市では、10ヶ所程度の公園に設置されているが、それほど使用頻度が高いとは言えない状況のようである。今後、器具設置の必要性や効果について調査をしながら検討していきたい。

■その他の質問事項

休日診療のあり方について



大西 基雄

デマンドタクシー推進について

QRコード



問 令和6年度から取り組む予定のデマンドタクシー「自宅や自宅付近から目的地まで」について進捗状況は。

令和6年度中に、村雲地区、雲部地区、畑地区、城北地区の一部、福住地区、日置地区で、先行的に新しいデマンド型乗合交通を導入する予定としている。

予約や配車などの運行管理については。

運行管理や安全対策等については、法令に基づく安全管理を実施しているバスやタクシー事業者はその業務を担っていただく。

予約と配車の方法については。

スマートフォンやパソコンを利用するオンラインと電話により予約を受け付ける方向で考えている。

どこから乗車できるのか。

今のところ各自治会のごみステーションがあるような感覚で、集落の中に数カ所バス停のようなものを設置しようと考えている。

利用者で支えていく出資による会員制にしてはどうか。



デマンド型乗合交通の運行維持に要する経費に関しては、特別交付税の算定対象となるので、事業費の8割が交付税措置される。導入に係る経費については、国のデジタル田園都市国家構想交付金や県の市町振興支援交付金を活用する予定である。

一定の財源確保が見込めることから出資という形での市民負担を求めず、利用しやすい仕組みとしていきたい。



山田 潔

農業の担い手を育成・支援する事業拡充について

QRコード



問 移住者を受け入れる市民の意識について。

近年は市外から様々な人材が市内で活躍されており、移住者を受け入れる機運が高まっていると感じている。

受け入れてもらえにくい場合は市へ相談いただき対応したい。

今後は移住者が農業を担っていく必要もあると考えるので、その機運を醸成したい。

農業に関心のある人が訪れたい総合相談窓口の開設を。

新規就農者希望者には「丹波地域就農センター」で、市と県やJAなどと連携してサポートしている。

また、「暮らしの案内所」にて空き家の紹介や、市独自の家賃助成を行っている。

神奈川県秦野市を参考に、丹波篠山農学校を拡充し、魅力ある就農体験コースの創設、および技能や経験を身につける場として2年間の新規就農コースの創設を。

秦野市と異なり丹波篠山で本格的な農業を始める場合は、農業知識の他に



も高額な機械も必要になるので、市内の農家が研修の受け入れ先となり長期間、現場で学ぶことを勧めている。

また、丹波篠山農学校は短期間で基礎知識・技術を学べる機会としている。受講されて就農した人は令和2年以降1人であり、就農後に受講された人は令和2年以降4人だった。新規就農コースの創設については検討課題としたい。



萩原 正人

1.ふるさと納税の活用について
2.スクールサポートスタッフの配置について

QRコード



問1 ガバメントクラウドファンディング(ふるさと納税制度を活用して行ラクラウドファンディング・GCF)をさらに積極的に活用してはどうか。

寄附額の増額を見込めないかという視点で取り組み、今後も改善改良を加えていく。NPO法人などが実施する事業については、事業ごとにGCFの活用を検討する。

寄附額の目標を達成しているプロジェクトの成功要因は。

プロジェクトへの共感を得られたことも大きいですが、プロジェクトを提案した団体の積極的な発信による周知も非常に大きな成功要因になっている。

ふるさと納税専用のSNSアカウントを作成し、さらなる周知を図ってはどうか。

各SNSの特性を踏まえ、ふるさと納税のPRに適しているか研究しながら、ふるさと納税専用のインスタグラムアカウント、Xアカウントの市による運用を検討する。

問2 スクールサポートスタッフ(SSS)を全校に配置してはどうか。

SSSの配置は教職員の負担軽減につながっており、間接的に教育の質の向上に貢献していると考えます。SSSの全校配置については、各学校の状況や職員の配置も踏まえ判断していく。今後も、子どもたちの教育環境の向上を目指し、教職員の働きやすい環境づくりに向けて取り組む。





荒木 礼子

丹波篠山市のお米のブランド確立と価格の向上を

QRコード



問1 「農都のめぐみ米」現状と課題は。

平成28年度から、環境や生き物に配慮したお米の作り方に取り組んできた。令和3年度から、市内9団体の集落営農組織の協力を得て栽培し、市内の学校給食米に提供している。農都のめぐみ米を慣行米と区別し、商品化するためには、現時点では、認証と流通面のそれぞれで課題がある。

市は農薬や化学肥料を県の慣行基準の2分の1以下に減らし、自然や環境に配慮して栽培する減農薬米「農都のめぐみ米」の栽培を推奨し、普及促進に努めている。ところが、農協では「農都のめぐみ米」として栽培したお米を出荷しても区別されず、慣行米と同じ扱いとなっている。一般の個人農家の多くは農協に出荷していることから考えても、市と農協が協力連携しない限りは、普及につながらないと思うが、どう進めていくのか。

12月4日に、市幹部と農協幹部で協議をした。今後も農協とは、認証制度のあり方や、流通体制における課題を共有し、連携して取り組みを進めていくよう協議を続けていく。

「農都のめぐみ米」単独の栽培こよみを作成していただきたい。

農協の丹波ささやま栽培こよみには、農都のめぐみ米の栽培ポイントは書かれているが、どれくらい化学肥料を減らせばよいか、また農薬の成分数についても記載がない。市では、認証制度を本格的に導入しようと考えている。まずは兵庫県の「ひょうご安心ブランド」の認証を取得し、作成していきたい。



足立 義則

1. どうする？ ささやま荘
2. 秋の混雑対策について

QRコード



問1 2019年9月に閉館した「ささやま荘」。その後の有効活用に向けた取り組みを問う。

あり方検討委員会において、再活用意見が出されており、活用希望事業者を募集する方向としている。しかし、近隣に予定されているホテル建設の計画が、事業者提案に影響を及ぼす可能性があることから、現在、募集は行っていない。

最悪の場合、活用策、事業者も決まらず、維持管理経費だけを支払い続ける状況が続くのであれば、取り壊すという選択肢を考える時が迫っていると

考えるが、見解を問う。

現時点では決めかねるが、今後活用したい事業者が現れない場合は、期限を設定し、取り壊しも含めた判断も必要であると考えている。

問2 10月の市街地観光客数(推計値)72万6150人と発表された。秋の混雑対策について、早急に交通安全対策会議を立ち上げ、関係各位との協議、住民合意の上、次年度の対策を講じるべきと考えるが、見解を問う。

今年、10月前半の土日祝日、地元自治会の理解を得て、上二階町から魚屋町まで通行規制を行った。地域の皆様から安全性が高まったとの声をいただいていることから、来年は、10月全週の週末の交通規制を考える。

二階町通りの混雑緩和と、飲食店不足の解消に向けて、市役所と北堀間の道路に交通規制をかけ、農作物の軽トラ市やキッチンカーを配置してはどうか。

キッチンカー等を配置することで更なる混雑が生じることも考えられるため、検討課題とする。



春の王地山公園ささやま荘

～賛否の分かれた議案等の公開～

議案等	議席番号 議員名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
		森本 富夫	齋藤 恭博	栗山 泰三	足立 義則	堀毛 宏章	渡辺 拓道	安井 博幸	向井 千尋	上田 英樹	山田 潔	前田 えり子	原田 豊彦	萩原 正人	荒木 礼子	大西 基雄	隅田 雅春	園田 依子	小島 政行	
認定 第1号	令和4年度丹波篠山市一般会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
認定 第2号	令和4年度丹波篠山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
認定 第3号	令和4年度丹波篠山市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
認定 第4号	令和4年度丹波篠山市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
請願 第2号	子どものために保育士配置基準の引き上げと、労働条件改善による保育士の増員を求める意見書の提出を求める請願書	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×	×	×	○

※○は賛成、×は反対。 ※小島議員は議長のため、採決には加わっていない。

【認定第1号～4号に対する反対討論】「命と暮らし最優先の市政執行を」

・高く払えないと悲鳴が上がる国保税。年齢で医療を差別する後期高齢者医療。3年毎の見直しで悪くなる一方の介護保険。高齢者も現役世代も安心できる社会保障制度にするために、国庫負担を増やし、自治体独自の減免制度や措置制度を充実させるなど、命と暮らしを最優先に市政が執行されることを願う。(前田)

【認定第1号に対する反対討論】「ふるさと応援寄付事業に関して、財政規律に大なる禍根を残す決算」

・市は、令和4年度歳入予算として寄付金4億円を計上したが、2.5億円しか集まらなかった。歳入不足により財政規律を大きく乱すこととなった。また、1.5億円の減額により、本来返礼品調達費として使われる予定だった約5千万円が地域経済に回らなかったことは問題である。(渡辺)

【認定第1号～6号に対する賛成討論】「概ね適切な予算執行につき認定に賛成を」

- ・我が市の財政は健全化の方向にあり、これまでの取り組みを評価すべきだ。また、コロナ感染予防対策を徹底して、日常生活を取り戻す取り組みも行われてきた。ふるさと応援寄付金は計画の4億円に対し約2億5千万円と未達だったが、前年対比約9千万円の大幅増を評価し賛成する。(安井)
- ・令和4年度においては、リモートワークなど働き方の変化もあり、田園回帰の流れが加速した。また、ふるさと応援寄付金は過去最高額だった。財政健全化の取り組みについては継続する必要があるものの、これらは本市の取り組みが評価されたものであり、令和4年度決算について一定の評価ができると思う。(向井)
- ・「国民健康保険」について、被保険者に過大な負担がかからないように財政調整基金等も繰入れる中、国保税率を変更しないで事業を実施した。「後期高齢者医療」について、国の法律改正による窓口負担の変更については、配慮措置があること等も被保険者証郵送時に記載し理解を求めながら事業を実施した。「介護保険」については、利用者が必要とするサービスを確保する中で介護サービスの利用を推進し、3つの特別会計全てにおいて、適正に執行されていると思う。(上田)

公聴機能の充実に向けて

議会基本条例について3回の議論を重ね検証しました。54項目ではA判定（達成）としたものの、4項目で取り組みを検討することとし、「委員会審査の録画配信」や「大型モニター」の導入及び附則に「合理的配慮」を明記する件について検討を進めます。

また、8月3日から4日まで、これからの議会改革の参考とするため、富山県氷見市議会と福井県越前市議会を訪ねました。テーマは「議会局の設置と議会人事権の確立について」と「議会改革の取り組みについて」、議会モニター「制度」です。

議会事務局を「議会局」に

氷見市は能登半島の東側付け根部分に位置し、自然の恵みに包まれている地域です。

令和4年から事務局を「議会局」に改め、限られた職員数で効率的に機能する組織づくりのために「議事法務担当」と「政策調査担当」を設け、責任と役割の明確化を図っています。

議長の人事権については、標準的な職を定める規則を制定し、議会主導の人事権を確立しました。

「議会モニター制度」で公聴機能を

越前市は福井県のほぼ中央に位置し、関西・中京圏や福井市などとの交通の動脈となっている地域です。

越前市議会では、議員の成り手不足や議員活動への無関心などの課題を解決するために、公聴機能を充実しようとして「議会モニター制度」を導入しています。任期は1年で各種団体推薦と一般公募あわせて15人以内としています。人選には苦労されている様子です。

丹波篠山市議会でも、広く市民の意見聴取がしたいと各種団体との「議員と語る会」を実施していますが、今後も公聴機能を充実する手法についても研究を進めてまいります。



越前市での研修

人口減少対策事業の継続を

4月に創造都市課から、「市の公共交通」の現状報告を受けるとともに、大谷大学社会学部の野村実先生から地域公共交通政策についての講義を受けました。5月に東部学校給食センターを現地踏査し、異物混入の原因の確認を行い、非常時の連絡体制を確認しました。7月に市内小中学校特別支援学級の現状について、学校教育課から説明を受けました。

事務事業評価の対象とした事業は、本市の課題である人口減少対策としての「関係人口創出拡大事業」、「地方交付税と公債費」、「部活動の充実事業」についてです。それぞれの事業の課題点について数点の指摘を行いました。必要な事業であり来年度以降も継続が妥当であると判断しました。

関係人口先進地の飛騨市を視察

飛騨市は、すでに国の予想の30年後を上回る高齢化率の人口減少先進地です。飛騨市の関係人口案内所「ヒダスケ」は、関係人口を増やし、人と地域の居心地のいい関係性を構築されています。

「ヒダスケ」は、市民の様々な困りご

とを、全国民から「お助け」をして貰い、「お助け」のお返しに地域通貨「さるぼぼコイン」を使用し、地域交流とお互いさまの支え合う仕組みで、地域経済の好循環を生み出していきます。この「ヒダスケ」を地域おこし協力隊が担っています。

「ヒダスケ」は飛騨市ファンクラブが始まりで、全国の会員数は1万2千人余り。令和元年には、飛騨市、楽天そして東京大学がそれぞれの強みを生かして「未来のコミュニティ研究室」を設立し、好循環を生み出しています。

これらの取り組みは、飛騨市長の攻めの戦略と、職員の主体性を育てる組織づくりが支えています。

飛騨市の取り組みは、本市の「丹波篠山つながり案内所」を始めとする関係人口を創出に参考となる好事例と言えます。



「ヒダスケ」のお助け体験

市民生活に欠かせない事業の継続を

7月に地域おこし協力隊の活動状況調査、市内福祉事業所への現地踏査、8月に事務事業評価、9月にささやま医療センターの経営状況の確認、11月に高知県高知市と香川県高松市への行政視察を行いました。

事務事業評価の対象とした事業は消防本部の常備消防費、保健福祉部の電子カルテ導入事業、環境みらい部の資源ごみ拠点回収の3点が、効果的かつ効果的に実施されたかを検証しました。それぞれの事業の課題点はあるものの、市民生活には欠かせない事業であることから、来年度以降も継続が妥当と判断しました。

人員確保が難しい

丹波篠山市障害者総合支援センタースマイルささやまと、一般社団法人みずほの家の現地踏査を行いました。両施設ともに看護師や介護士など医療従事者の人員確保が難しい現状を確認しましたので、引き続き調査研究を行います。

「学び」×「実践」で楽しく地域おこし

高知市では、地域課題の解決や担

手創出のため、官民協働で地域おこし学校「こうちみませ楽舎」を開校されています。人口減少による地域経済の衰退が懸念される中、地域をフィールドワークの場所として活用し、市外関係者や地域おこし協力隊が一緒になり、地域を元気にするための取り組みが地域力の向上やコミュニティ機能の維持に繋がっていました。

地域みんなで支え合うまちづくり

高松市では人が生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けて取り組んでいます。

地域の人みんなで支え合う仕組みづくりや、身近な相談支援体制、暮らしのどんな困り事にも対応できる仕組みづくりは、本市の福祉行政を更に豊かにするための参考事例でした。



高松市での研修

長期的視点に立った森づくりを

7月に市の出資団体、有限会社グリーンファームとその担当課へのヒアリング、インボイス制度の研修、8月に事務事業評価、10月に愛知県瀬戸市と三重県の速水林業を視察しました。

事務事業評価の対象とした事業は、5年ごとの法定点検が定められている市道橋を管理する国庫補助道路整備事業、観光客の周遊の利便性向上のために運行されているグリーンモビリティ事業、他市にくらべて遅れている地籍調査事業です。それぞれの事業の課題点について数点の指摘を行いました。必要事業であり来年度以降も継続が妥当と判断しました。

ジブリパークを意識した瀬戸焼の振興

視察先の瀬戸市では、名古屋のホテルと協力して、若手の作家の展示販売会の開催、愛・地球博の跡地にオープンしたジブリパークに関連して、ジブリアニメのファンに対して、瀬戸焼の鑄込みの技術をつかったジブリ作品のミニチュアづくりの企画を実施するなど、工夫をした観光客の誘致を進めていました。

光あふれる森は持続可能な森

速水林業の視察では、速水亨代表から「常に前を向いた速水林業」の題で森林管理の理念と経営ノウハウについての座学を受け、その後に森を視察しました。

速水林業の森の特徴は、どんな市場ニーズにも対応できる多様な樹齢の木が混在し、光の入る森であることです。森林管理において光の管理が木の生育にとって重要であり、林内の地面にまで光が射すようにすることで、多様な植生が生まれ、樹齢が高くなっても維持できる森がつくられています。

丹波篠山の長期的視点に立った、森づくりに大変有用な視察となりました。



速水林業の森を視察

「公聴」の役割も果たしたい

親しみやすい広報にするため、4月発行の105号から、篠山養護学校の児童・生徒が作成した作品を表紙で紹介しています。

篠山養護学校の児童・生徒さんのご協力で、親しみやすく、素敵な「市議会だより」になったと好評でした。

また、本年8月24日から25日には、「京都府精華町議会」と三重県いなべ市議会への先進地視察研修を行いました。

その後を追う

精華町は、京都府の南西端にあり、京都府内では最大の人口を有する町として、成長を続けています。

「精華町議会だより」を編集する「広報広聴常任委員会」は、議員18人のうち9人が委員という力の入れようで、「情報公開・説明責任」を果たすため、過去の一般質問において「検討する」などの答弁があったものを「その後を追う」というコーナーを設け、行政の一般質問に対する「到達度」を記事にしています。

市民の意見に耳を傾ける広報誌

いなべ市は、三重県の最北端で滋賀県との県境に位置します。

いなべ市議会が発行しているのは「議会だより」ではなく、「よむギカイ」という固有名詞を付けています。この「よむギカイ」は、3年前のリニューアルでフルカラーとし、また、経費削減のため、ページ数を減らして発行しています。表紙のデザインをはじめ、紙面は、まるで雑誌のように、とても洗練されていました。

また、裏表紙には、市民参加型のクイズコーナーを設け、広く市民の意見を聞く公聴の機能が設けられています。

本市の「市議会だより」も、広く市民の意見を聞く「公聴」としての役割を果たすことも重要だと思えます。



いなべ市での研修

出張版、議員と語る会を開催

思いや意見を伺いました

市内の各種団体と議会報告・意見交換を行いました。

応募された団体から出された希望のテーマに基づき、各団体の活動内容や施策への改善提案など様々な話を聴かせていただきました。今後の議員活動に繋げて参ります。

総務文教常任委員会・民生福祉常任委員会

NPO法人篠山国際理解センター
「外国人市民との共生・篠山国際理解センターの運営について」

「違いを認めながらも外国人とともに暮らしやすい地域づくり」のため、多文化共生社会の実現に向けて活動されています。

課題としては、医療通訳者の確保や、外国人住民増加に対応するための体制など、NPO法人には責任が重すぎる。多文化共生の推進について、民生福祉常任委員会で継続して調査・研究を行います。

民生福祉常任委員会

NPO法人スマイルポケット

「丹波篠山市における子育て世帯の支援について」

ラインでの情報発信、コープこうべやJA丹波ささやまとの連携事業等、アウトリーチ活動により、ひとり親世帯へ弁当や食材等を届ける活動を広げられています。

課題としては、人材・資金・場所の確保や、個人情報保護制度によって必要な方の情報把握が難しいこと、知名度の向上などを上げられていました。

市の事業を受託するため、支援者増加、また活動をアピールして、さらに実績を積んでいただきたいと考えます。

丹波篠山市手をつなぐ育成会

「障害者が生き生きとくらすためのまち」市等に在住・在勤する知的に障がいのある人を守り教育と福祉の向上を図ることを目的に活動されています。

課題として、医療的ケア児の受入れ体制、介護士等の医療従事者不足などを上げられていました。

家庭の事情や悩みごと、そして市への意見や提案を聴き、議会としても議員としても大変有意義な会でした。

議会で情報を共有するとともに、市への情報提供を行います。

若者や子どもで賑わう地域にしたい!!

～議会報告会(後期)の開催：11月8日～21日 市内10地区～

市民に開かれた身近で信頼される議会、市民の負託に応えられる議会の実現のため、さまざまな取り組みを行っています。そのうちの一つに「議会報告会」があります。

直近の市議会の諸活動を報告し、地域の皆さんの声を聴くとともに、将来に向けてのご意見をいただく重要な機会と位置づけ、市内の旧小学校区19地区で、各自治会長やまちづくり協議会の協力のもと開催しました。本年の議会報告会は、前期(5月)と後期(11月)に分けて実施し、後期は10地区での開催となりました。

後期のテーマは、前期と同様「担い手不足」についてです。参加の皆さんに地域の将来像を語っていただき、その実現に向けて「不足している担い手」と、担い手を充実するための「アイデアと提案」をワークショップ形



式であげていただきました。その結果、すべての地区で共通する地域の理想とする将来像は、「若者や子どもで賑わう地域にしたい」という切実な願いでした。下段に、各地区で出された意見を集約しましたが、地域の特性が現れた内容となっています。

開催地区	地域の理想とする将来像	不足している担い手	解決へのアイデア・提案
まとめ	子どもや若者の多いまち 人口増で活力のあるまち	若者向け住宅や働き口 祭りなどの若い担い手 若い自治会の世話役	ベンチャー企業の誘致 給食費やおむつの無償化など子育て支援の充実。世代間交流
村雲地区	夢を持って農業を続けられるまち 高齢者が安心し暮らせるまち	農業を引き継ぐ人 生活上の交通手段	土日農業モデル地区 有償運送のエリアと事業の拡大
福住地区	医療・交通・買物の充実したまち 伝建地区中心のおしゃれなまち	総合病院、スーパー 交通手段	通勤通学バスのダイヤ拡充 福住の魅力を発信する人材の増
日置地区	地域住民のふれあいが多い地域 子育てにやさしい地域	若者、祭りの担い手 子どものあそび場	SNSによるふれあいの場の提供 祭りの乗り子確保対策実施
後川地区	交通の便の良い安心な地域 農地里山など地域の良さを活かす	トンネル 地域の担い手	新城東トンネルの開通 地域の良さをもっと発信する
篠山地区	あらゆる業種のある賑わうまち 安心して暮らせるまち	商業、観光業環境整備 交通・火災等安全対策	起業家や店舗の誘致 地域包括システムの確立
八上地区	若い世代と創る活力ある地域 移住・定住しやすい地域	地域と交流する若者 Uターンしやすい施策	地域の良さをアピール 農業振興地域の宅地化
西紀中地区	付加価値の高い農業が可能な地域 農業希望の若者が集まる地域	大規模農家 意欲のある若い農業者	付加価値の高い農産物の構築 農産物の6次産業化
西紀南地区	子どもや若者と助け合うまち 老若男女が集うまち	若者世代 リーダー	効率的なコミュニティづくり 自治会統合、集落の共同作業
大山地区	人の交流、農作業が盛んな地域 みんな元気で明るい地域	小さくても稼げる農業 夢を語るリーダー	持続化に必要な技術の伝承 専門家や学生との協力体制
今田地区	他から注目される活気ある地域 皆が笑って生活できる地域	祭礼や自治会行事の担い手	地域の魅力をSNSで発信 自治会統合へ道筋をつける

次回の会議は2・3月に開催します。

【通称:弥生会議】

- 2月 6日(火) 本会議(第1日)
議案提案 他
- 2月15日(木) 本会議(第2日)
施政方針・当初予算 他
- 3月 5日(火) 本会議(第3日)
補正委員長報告 他
- 3月13日(水) 本会議(第4日)
一般質問 他
- 3月14日(木) 本会議(第5日)
一般質問 他
- 3月26日(火) 本会議(第6日)

- (常任委員会・分科会)
○予算決算委員会分科会
補正予算審査
2月 7日(水)民生福祉
2月 8日(木)産業建設
2月 9日(金)総務文教
2月29日(木)全体会
当初予算審査
2月16日(金)産業建設
2月19日(月)総務文教
2月20日(火)民生福祉
2月21日(水)産業建設
2月22日(木)総務文教
2月26日(月)民生福祉
3月19日(火)全体会

◎いずれも午前9時30分開会予定。どうぞ傍聴にお越しください。なお、市のホームページ(YouTube)でも本会議を中継します。また、市役所本庁舎(1階ロビー・4階議場前)に設置のモニターでも本会議の視聴が可能です(リアルタイムのみ)。

※傍聴にあたり、託児を希望の方は開催日の2週間前まで、手話通訳を希望の方は開催日の4週間前までに議会事務局へご相談ください。

※議会だよりに対するご意見やご感想は、下記までお寄せください。
TEL (079) 552-6855
FAX (079) 552-7104
E-mail
gikai_div@city.sasayama.hyogo.jp

丹波篠山市議会だより 第108号
令和6年1月19日発行

編集・発行

丹波篠山市議会広報特別委員会
原田豊彦・前田えり子・堀毛宏章
渡辺拓道・安井博幸・園田依子
〒669-2397 兵庫県丹波篠山市北新町41番地
TEL (079) 552-6855

丹波篠山市議会 検索



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。



環境にやさしい
植物油インキを使用しています。

全戸配布の広告募集

企業(お店)PRは「市議会だより」で!!

募集締切:令和6年2月29日(木)

市議会だよりでは、紙面を有効活用し、自主財源創出のため、広告掲載を行っています。掲載を希望される事業所様は、議会事務局(552-6855)までお問い合わせください。

なお、掲載基準や申込書などは市議会ホームページに掲載しています。

規格	枠数	広告掲載料
最終ページ フルカラー	最大2枠	1枠:年間40,000円
内ページ 2色	最大4枠	1枠:年間20,000円

サイズはこのページ下の2枠をご参照下さい。

(市議会だよりの概要)

発行部数:17,000部
配布場所:市内全世帯(自治会経由)、本庁舎・支所・市内企業・医療機関・理美容施設等
発行回数:本会議(3月、6月、9月、12月)の翌月発行 計4回

まらなみ

昨年は阪神とオリックスの優勝、サッカーはヴィッセル神戸が初優勝。来年には少し心配な大阪・関西万博ですが、西が躍動しています。丹波篠山市も市民がワクワクしながら便乗、いや!関西をリードして盛り上げたいものです。(原田)

この3年間、新型コロナウイルスの影響で中止や縮小を余儀なくされていた祭りや行事が、一気に戻ってきました。篠山を訪れる人も増え、賑わいが戻ってきました。暮らしの中で培われてきた伝統行事や文化、大切にしたい。(前田)

本年度、市内19地区での議会報告会のテーマは「担い手不足」。どの地区ももう待たなしの感。篠山地区と日置地区では、祭りの鉾山や山車の囃子方など担い手対策として、広域化を真剣に検討、実施されようとしています。(堀毛)

昨年は、コロナが落ち着きを見せた一方、イスラエルとハマスの紛争が激化。私たちも戦争の不安と物価高により苦しみました。今年もしばらくは、それらの不安から市民の暮らしを守ることが市政の課題となりそうです。(渡辺)

令和4年度の決算認定では、複数の賛成・反対討論が行われた。今号から賛否の分かれた議案について、発言者の名前が記されるように変更された。これにより議場での議論や各議員の考え方が判り易くなったのではないだろうか。(安井)

暖冬傾向といわれている今季の冬ですが、朝夕の冷え込みには注意が必要です。また、この時季は空気が乾燥するため火災が多くなっています。火気使用時の注意はもとより、火の元には十分注意していきましょう。(園田)

広告

各種建築板金工事(屋根・外壁・雨樋) / 一般土木工事(基礎・埋立・造成)
内装工事(軽天・木工事、各種造作全般) / 解体工事(木造・鉄骨・RC解体)



馬場板金

建設業許可 / 兵庫県知事許可 第 752258 号
産業廃棄物収集運搬業 / 兵庫県知事許可 第 02808152412 号

TEL 079-557-0560

FAX 079-506-4535

〒669-2504 兵庫県丹波篠山市西野々28

広告

販売・車検・板金塗装・整備、車のことならすべてお任せ!!

篠山オートセンター

軽トラック買取強化中

この広告を見たご連絡いただければ、買取時 買取額+3万円UP!

出張査定無料 詳しくは ☎0120-338-196

営業時間 9:30~18:30 〒669-2202 兵庫県丹波篠山市東吹830番地

定休日 火曜日 TEL(079)594-3490 FAX(079)594-3491

